



2024.12
Vol.

34

一般社団法人 二科会写真部 広報誌
NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS

REAL





第73回展の 作品受付迫る



要項の変更に注意

2025 第73回 二科会写真部展

【受付期間】 3月1日(土)～3月10日(月) 消印有効
【応募部門】 単写真部門／組写真部門／Young部門
【作品発表】 第109回二科展 国立新美術館
2025年9月3日(水)～9月15日(月)

大きな 変更点

アートフォト部門が廃止となり、
単写真部門へ組み込まれる
超光沢プリント(クリスタルなど)
での応募は不可

※名誉会員・会員・会友提出プリントも同様

⚠️ 二重応募・類似作品にご注意を!

- 応募作品は「未発表作品」に限ります。結果が出るまでに同じ作品、類似する作品を他の公募展やコンテストに応募すると二重応募や類似応募となる可能性があるため応募を控えていただきますようお願いいたします。
- 他のコンテストなどで入賞・入選となった作品や公表の印刷物に掲載、WEBサイトに掲載されたものは「既発表作品」となりますので応募できません。
- 「既発表作品」「類似作品」と主催者が判断し、認めた場合は、入賞・入選を取り消します。
- グループ撮影会などにおける類似作品については、REAL32号をご参照ください。



第72回の二科会写真部展は、2024年9月4日(水)から16日(月)まで東京・六本木の国立新美術館で開催されました。第108回の二科展として、期間中に7万2千743名が来場し、コロナ禍以前の水準へと戻りつつあり、会場も連日多くの写真ファンなどにぎわいました。

新設されたYoung部門は1回目の応募ということもあり、応募数は少なかったのですが、新鮮味のある作品が並び、二科の写真に新たな風が吹き始めてきた印象でした。二科会写真部では、高校写真部や大学写真部などに応募促進をしているほか、写真雑誌『フ

7日と8日には蜂須賀秀紀名誉会員、大貫巨名誉会員によるギャラリートークが開かれ、入賞作品に対して講評を行い、たくさんの方が食い入るように入賞理由に耳を傾けていました。

7日と8日には蜂須賀秀紀名誉会員、大貫巨名誉会員によるギャラリートークが開かれ、入賞作品に対して講評を行い、たくさんの方が食い入るように入賞理由に耳を傾けていました。

山形支部が創立50年 記念展や研修会を開催



11月の山形支部撮影会メンバー。

山形支部は、故・飛塚英寿名誉会員を中心に創立され50周年を迎えました。飛塚名誉会員の「東京の美術館に写真を飾ろう」を目標に多くの入賞・入選者を輩出してきました。2024年6月には、50

周年を記念する支部員作品展を県芸文美術館で開催。二科会写真部展と東北地区公募展の入賞・入選作品をあわせた104点を展示。山形市内はもちろん、県内外から多くの方が訪れ好評でした。また11月には、県民の森を会場に撮影研修会を午前中に実施。一般参加者も加わり、23名が撮影の腕を磨きました。その後は、県民の森近くの閉校した学校で土日のみ営業しているおそば屋さんにて新そばを味わいながら交流を深め、楽しい時間を過ごしました。

兵庫支部の恒例行事で 支部活動を盛り上げる



会員、会友推挙お祝い会にて。

10月8日、神戸三宮のグリーンハウスパアルトにて会員、会友推挙お祝い会が開催されました。寅屋壽廣さん、内田玲子さんの会員推挙、嶋崎敬子さん、千原美津枝さんの会友推挙を祝い、それまでの道のりや苦勞話、喜

びの声を語り、27名の参加者と写真談義に話が咲きました。11月2日には兵庫支部撮影会を実施。50名の参加者が淡路シエアホースアイランドを舞台に、サラブレッド、農耕馬(寒立馬)、ポニーの三頭、ニワトリもモデルになりゲストにはファミリーも参加して大雨の中での大撮影会となりました。兵庫支部では、交流を活発化させることで刺激を与え、意欲を高めるように努力をしている姿が見られ、大いに参考になります。

Young部門の応募数増加へ 各支部で若者との交流を模索

第72回展からスタートしたYoung部門は、初回とあって応募数の伸び悩みがありました。全国の各支部では若者の二科展への参加促進に繋がるような活動がされています。72回展を前に福井支部の山内支部長は県下の高校写真部へ出向き、応募を依頼。入選内定を受けてプリントからパネル作りまで自作で仕上げて二次審査に挑みました。また石川支部では、神谷支部長な

「オートコン」の誌面で、全国の高校写真部とオンラインでつないでの添削教室を展開するなど、二科会写真部の認知度向上の活動も行っています。そして、第73回展の公募規約も各地で配布され、3月1日(土)から10日(月)までの作品受付に向けてみなさん動き出しているところでしょう。72回展と大きく異なるのは、アートフォト部門が廃止となったことです。これまで同部門へ応募していた作品は、単写真部門の1ジャンルとして組み入

れられることになっていきますので、アートフォトファンは安心して応募できます。よって、73回展は、A・単写真部門(単写真のみ)、B・組写真部門(3枚組写真)、C・Young部門(単写真)での募集となります。これからプリントづくりをする際、大きな変更点となっているので、間違えないようにご確認ください。また、名誉会員・会員・会友作品の提出が遅れた場合は出品扱いとなりますのでご注意ください。

どが金沢美術大学、金沢学院大学、北陸大学、金沢大学を訪問し、公募展の説明、出品を依頼。

さらに長野支部では日本学生写真部連盟とのコラボ企画を検討するなど、各支部とも次世代の二科を見据えて活動を行うとともに、若者の写真への考え方から刺激を受けるなど、双方にとってメリットのある動きが見られます。3月の応募に向けて、写真をやるお子さんやお孫さん、さらには所属する学校の写真部などへ積極的に声をかけることで二科会写真部がもっと元気になることでしょう。

照井四郎会員が 能登地震復興支援展を開催

2024年元日に石川県能登地方を震度7の地震が襲い、大きな被害を受けました。照井四郎会員は2月、4月、そして6月の3回、延べ12日間、惨状と現地の声「瞬間証言」を記録。その光景を広く知ってもらおうと7月9日から18日まで和歌山フォルテワジマで復興支援展「能登地震1.1」を開催しました。会場に置いた「おきもちカンパ」で集まった124,516円は和歌山県庁を通じて、能登半島へ全額送られました。

徳島支部でセミナー開催 テーマ撮影の大切さを学ぶ



11月10日(土)、2024年二科会写真部徳島支部セミナーを開催。三重支部の矢田新男会員を講師に「ノラ猫に魅せられて40年」と題して、テーマを持って撮影することの大切さをお話いただきました。セミナーには支部員31名が参加し、意義のある貴重な3時間を過ごすことができ、今後の作品づくりが楽しみです。

福井県立丹生高等学校を卒業し、現在は日本大学芸術学部写真学科で学んでいる柳生陽音さん。2024年より新設されたYoung部門においてラポネットワークショップを受賞しました。写真を始めたいきっかけをお聞きすると、

「小学5年頃に祖父にコンデジをもらって景色や身の回りの動物を撮っていました。高校では写真部に入りたかったです。丹生高校は写真部が活躍していることで有名でしたが、1年生の頃は、コンペに出しても全部負けて……。写真は好きになっていきましたが、でもやっぱり悔しくて」

そこからは顧問の先生などに作品を見てもらい、積極的にアドバイスを受けたと言います。

「写真の内容や編集方法など具体的に指導してもらい、だんだん入賞できるようになりました」

二科展への応募は福井支部のメンバーが同校での写真展へ来て勧められたからだという。



ラポネットワークショップ
「これからもよろしくね」



インタビュー
柳生陽音さん
「歴史ある公募展で評価されうれしかった」

ブルを撮影させてもらった作品です。表彰式で壇上へ上がったとき、人の多さに驚きました。展示会場の作品群にも圧倒されましたね。コンペへの応募は、結果よりも自分の意図や作風が通じるかどうか大事だと思っています」

将来について話が及ぶと、「写真家になりたいと思っています。いまは築地でバイトしながら作品撮りもしています。福井から東京へと環境が大きく変わりましたが、写真に触れられる機会が多くて充実しています」

学生部門が廃止から10年。若者に写真ブームが訪れている中、その感性を展示に加え、次代の二科を見据えたものしようとして72回展よりYoung部門を新設。入賞した二人に話をお聞きました。

奨励賞「視線」



インタビュー
池田遥さん
「撮りたいイメージになるまで4週間撮り続けた」



作品を作っていきます。部の友だちもみんな上手なんです」

そして2024年の二科展、見事に奨励賞を受賞したのですが、一枚の作品を作るのに相当な努力があったそうです。

「学校で撮影していたら面白い人がいて、モデルになってください、と頼んだんです。朝、部室に来てもらって、ストロボ3灯を使って何度も撮影しました。左目が見えなくなる位置にカードが飛んだ瞬間を撮れた納得の一枚ができるまで4週間かかりました。モデルになってくれた子にも感謝です」

このアイデアは池田さんが思いつき、一人で撮ったのだという。

「全国的にも有名な公募展で、Young部門ができたことを知って、応募してみたいと思いました。大きな美術館に自分の作品があった時はうれしかったです」

将来の夢は、「大学に進んだらその大学の雰囲気や伝わる写真が撮りたいし、保育士になって高校で学んだ写真の技術で子どもたちを撮り、保護者に喜んでもらえる写真を残したいです」と力強く語ってくれました。

2023年の第71回展にてアートフォト部門でトキナー

賞を受賞した岡山県の瓜生倫子さんは、このたび写真画集『地球の帆布』を刊行しました。写真画集という通り、写真でありながら、絵画でもある、つまりはイメージを膨らませ、Photoshopで描き出



INTERVIEW
「作品集にまとめたことで私の人生を振り返ることができた」
瓜生倫子さん

200mm×225mm
ソフトカバー・カラー64ページ
問合せ：日本写真企画
TEL.03-3551-2643



定価 3,000円(税込)

うりゅう・みちこ 1939年、山口県生まれ。96年頃、知人に貰った一眼レフにより写真撮影を始める。岡山県北写真展山陽新聞社賞。99年、日写連真庭支部年度賞1位。2017年、Photoshopによる写真画の制作を始める。23年、24年二科会写真部展に入賞・入選。



収録作品から

なり落ち込んでいました……。それでも何かしないと、思っていたところ、写真の勉強をしてみたいなと。子どもたちもお母さんは大学に行っていないから、4年間の時間と費用を写真に費やしたら、と背中を押してくれました。でも70歳を過ぎていました」

大阪の写真教室に通うことになりましたが、同時にPhotoshopを使い始めてその面白さに夢中になります。

「やり始めると必死にあれこれイメージに近づけるように作り込みますが、気付いたら朝5時だっ

たということもよくありました。さすがに最近では気力が落ちてきたのか、頻繁にはありませんが、徹夜になることも。でも納得いく一枚ができるとうれしいです」

これまでに数々の作品を作りだしてきましたが、なにか形に残したほうがよいのではないかと迷っていたそうです。

「本にまとめて生きた証にしたいと思いましたが、なかなか踏ん切りがつかず(笑)。でも先生のすすめなどもあって思い切つてやることに。本のタイトルなんかはたくさんアイデアを出して絞ったりしましたし、最後に出来た作品なども入れ込んでもらって私としては、出来過ぎなくらいに感じる本になりました。ただ、私の作品は写真ではないので写真集というのとは……と思っていたら、編集長さんから写真画集はどうですか、と提案があり、ぴったりだなと。皆さんの協力があったてきた一冊です」

瓜生さんは、本の形になっていれば十分で、だれが自分の作品集を買うのか、と半信半疑だったようですが、完成後の反響の大きさ

に驚いたと言います。

「お世辞も含みますが、すごく良かったと言ってもらえて、あんなに悩んだのにやって良かったなと感じています(笑)。たくさんある作品も、私がいなくなればどこに行っただかもわからなくなりませんが、本棚に収まっていれば、いつでも見られるし、捨てられることもないかなと思います。

あらためて振り返ってみると、写真をやってきて本当に良かったと思いますし、私にとっての生き甲斐です。二科展のアートフォト部門はまさに私の作品を見てもらえる絶好のチャンスだと思つて応募してきました。73回展から部門としてはなくなってしまうのがちょっとさみしいですね。

2冊目の作品集はさすがにもうありませんが、私のやってきたことを残せたので、あとは作品づくりを楽しみたいですね」

時間やお金をかけて撮り続けて来た作品。写真を趣味として、全力で取り組んできた生き様がきつと写っているはず。瓜生さんの姿勢は、多くの写真愛好家にとって参考になるものだと思います。

写真を始めたのは山登りが好きな先輩に連れられて山へ行っったときに記録するようになったことです。風景は大きな変化がなさそうでも年々変わって来ていて、それを写真で残そうと。特に冬山が好きで四国の山を撮り続けていました。そんな中、プロの写真家さんと出会って作品づくりを意識することになり、それまでとは違った取り組み方をするようになって今では高松市内でのスナップなどが中心です。



公募展へのチャレンジは生き甲斐

現在、二科展とJPS展、視点展、そして香川県内の2つの公募展を柱に写真活動をしています。それぞれの公募展用に撮り分けるようなことはせず、撮った作品の中から、それぞれの公募展に向くかな、と思うものを選んで応募するようにしています。

二科展は、最初の数年は落選続きでしたが、6年ほど前に初入選してから連続で選んでいただいています。関東に友人が多いので国立新美術館に見に来てもらえるのが嬉しいです。最もやりがいを感じます。5つの公募展で入選を目指すことは私にとっての生き甲斐。今後も楽しみたいと思っています。

國宗幹夫さん
(香川支部)

自分の思いを作品に込められるのが楽しい



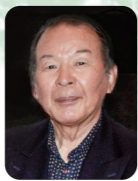
私は旅行が好きで誰に見せるわけでもなく記録として写真を撮っていました。ある時、カナダでオーロラを撮った写真を照井一郎会員が見てくださって、「これはいいよ、作品づくりをしてみないか」と言われ、写真への取り組み方が変わりました。それからは構図を気にするようになったり、今まではパッと一枚撮って終わりだったのに画面中でポイントになるような人物が来るまで待つようになったりしました。お陰で一人でない旅行ができなくなりましたが(笑)、写真の世界が一気に広がったのです。

二科への初応募は先生からアドバイスをもらったオーロラの写真でした。その後は、アートフォト部門ができたことがきっかけでパソコンでの作品づくりを模索しました。というのも、小学校から大学まで16年ほど油絵をやっていたし、仕事柄パソコンでの絵作りができたからです。2020年には二科賞をいただきましたが、頭に描いたイメージを、写真を使って作品にしていく作業が私には合っていて、以降はアートフォトを出品し続けています。これからもメッセージを込めた作品を発表していきたいです。

竹田理絵さん
(和歌山支部)

全国の支部で元気に活躍する8名をピックアップ。

写真を始めたのは今から15年ほど前。私は学生時代から油絵や水彩画をやっていて大分で個展を開いたこともあり。仕事で東京や福岡へ行く機会があってその時に小さなカメラで写真を撮っているうちに写真への憧れを持つようになり、2009年にキヤノンのEOS 5D Mark IIを買ってから風景や動物などを撮っていました。グループに入って二科に応募するようになり、2019年に全国知事会賞をいただきました。その際に表彰式でほかの方の話を聞いていて、自分もパワーアップしないと!と奮起し、カメラを買い替えたり、レンズを増やしたりして作品づくりにも力を入れましたね。



油絵と写真をミックスした表現が面白い

油絵は描きながら想像して色を上塗りして重厚感のある作品になります。だから写真でもどうしても明るい写真よりグッと色の深みを強めた表現が好きですね。いまは、ソフトを使っての作品づくりも楽しんでいますが、油絵と写真をミックスしたような作品づくりが楽しいです。もちろんベースは写真なのでいじりすぎないようにしていますが、イメージ通りの作品に仕上がったときはワクワクします。

渡邊昭雄さん

世界の人々を写真で伝えたい



私は退職後にバックパッカーとなり、1回に3か月滞在することもあるような楽しみ方をしています。海外での素敵な光景を写真で収めるため本格的に写真を撮るようになりましたが、一人でわがままに旅するには、写真を撮っています。旅は片道切符で、基本的にバスや列車など地上を移動することにしている、各地での出会いを大切に、カメラを向けては撮影しています。

二科への応募は、中国新聞で展覧会の案内が出て見に行ったことがきっかけでしたが、クラブに所属しているわけでもなく、プリントの仕方すらわからず(苦笑)、初応募から3年は落選が続き、4年目で初入選。それからは落ちたり、入ったりを繰り返したりもしました。応募作品はすべて人が写っているものを選んで。その地域の風習や風俗、生活が好きなのでそれを写真で伝えたいという思いもあります。

今後も、いまのペースで旅を続けながら、作品づくりを続けていきたいですし、どこでどんな出会いがあるかドキドキしながら各地へ向かいます。

一元広健二さん
(広島支部)

旅に行っても自分の目に記憶する、とか言って数枚しか写真を撮らなかったのですが、少しでもちゃんとした写真を撮りたいという軽い気持ちで、また自分のライフサイクルに合わせた時間で無理なく通えるから、と選んだ写真教室がなんだか場違いだったようで「ここは中央の公募展を狙っているクラスだから」との先生の言葉に後悔したところからスタートしました。



感動の出会いを続けたい

でも先生やメンバーの写真を見ていると今までに見たことのない世界が広がっていました。旅先で出会った感動的なシーンというよりは、被写体の表面だけでなく、その奥にある目に見えない部分も訴えかけてくる作品たちに心動かされ、「私もこんな写真を撮りたい!」と思うようになりました。

作品づくりでは、「すっきり、はっきり」「主役と脇役」「物語性があるか」という先生の言葉を胸に被写体に向かっていきます。二科に初めて応募したときは、落選でしたが、2年目に入選できて嬉しくて、東京の展示にも行きました。写真は感動の風景を記録できるのが魅力です。これからも出会いを大切に撮り続けます。

高桑朝代さん
(石川支部)

二科を通じて多くの人に出会えるのが喜び



佐々木俊江さん
(宮城支部)

教師をしていたおじがカメラを持っていて小さい頃から興味はあったのですが、友だちが写真を撮っていて面白そうだなと思ったのがカメラを買ったきっかけでした。

最初は花などを撮ってはいたのですが、ある時期から月に1回仕事を休んで裏磐梯のペンションへ2泊3日で撮影に行くようになってその魅力にはまった感じです。写真家であるオーナーは撮り方を教えてくれるのではなく「どう撮りたいんですか?」と聞いてきて、それを表現する方法を考えさせてくれるので、勉強になりました。

ある日、阿武隈川の河川敷で撮影していたら声をかけられました。それが二科の人だったのですが、ブログで発表していた写真を見てもらった「二科に向いている」と言われ応募することに。初応募で初入選できたのですが、入選くらいじゃ東京まで見に行ってもしょうがないこと知ってそれからは行くようになりました(笑)。二科展の表彰式へ行くと、Facebookなどでつながっている仲間にも見え、人とのつながりが得られる二科の良さを実感します。

楽しみ方!

写真を始めたのは子どもがバスケットチームに入ったのでプレーする姿を上手に撮りたくて、カメラの操作を学びたいと近くの公民館でやっていた写真講座に入りました……が、そこは作品づくりを中心に活動している講座だったんです(笑)。使い方も教えてくれたんですが、芸術としての作品を作る世界も面白いなと思って指導を受けました。今思うとピントが合っていない写真もたくさんありましたが、バスケの保護者からは喜ばれて、写真っていいなと感じたことでより写真が好きになった感じです。



スポーツ写真の魅力にはまった!

二科展は講座の先生に勧められて応募したのが2021年。初応募で初入選をいただきうれしかったですね。バスケから写真に入ったことあるのですが、スポーツを撮るのが好きで、スピード感や瞬間をとらえるのが魅力です。なかでも、地元の鈴鹿で年1回、7人制女子ラグビーの大きな大会が開催されますが、これは絶対に外せません。撮り行くのが楽しみなんです。スポーツ以外のものも含めて、私らしい写真とは何かを模索しながら、これからも撮り続けていきたいと思っています。

国分美恵子さん
(三重支部)

写真ってやっぱり素晴らしい!

個性ある作品づくりを目指したい



勢司秀夫さん
(茨城支部)

高校時代は写真部に所属し、自分で焼き付けをしていましたが、社会人になって仕事優先で写真からは離れていました。60歳の区切りで何かを始めようと思ったときに思い出したのが写真でした。環境はデジタルになっていたので昔とはスタイルも変わりました。デジタルはたくさん撮れるのでチャンスが広がった感じがして、楽しいですね。

私は絵を見るのが好きで、また近所に二科で活躍されている方もいたので、二科というものに憧れがあって、応募したとしても入選するまでに10年かかるな……とっていました。写真展で出会った先生の教室に入ったのですが、一回目の教室では二科へ応募する作品の選定をしているところで、そのレベルの高さにやっぱり10年は無理だと(笑)。

それでも先生や仲間のすすめもあって茨城二科展に出して入選、その後に本展に応募したらいきなり入賞。奇跡か、運がいいかと飛び上がって喜びました。その後3年連続で賞をいただいたのですが、自分の個性を出すにはどうしたらいいのかと模索中です。その一歩を踏み出せたらまた新しい世界があると思っています。

長野支部で撮影会を開催
モデル撮影を楽しむ



10月19日、長野支部の南信地区活動の一環として、群馬県ロックハート城において総勢20名が参加してのモデル撮影会を開催しました。天気にも恵まれた撮影日和の中、石造りの洋風建築で知られるテーマパークを背景に作品づくりを存分に楽しみました。



第108回二科展大阪巡回展を
尼崎市で開催
108回となる二科展の大阪巡回展が10月31日(木)から11月10日(日)まで尼崎市総合文化センターにおいて開催され、絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門の作品が展示されました。
写真部では、第72回展における名誉会員・会友作品のほか上位2賞と大阪・兵庫・奈良・和歌山の1府3県在住の入賞・入選作品133作品を展示。会場には、連日多数の来場者があり、作品一点一点を熱心に鑑賞していました。

写真部では、第72回展における名誉会員・会友作品のほか上位2賞と大阪・兵庫・奈良・和歌山の1府3県在住の入賞・入選作品133作品を展示。会場には、連日多数の来場者があり、作品一点一点を熱心に鑑賞していました。



森井禎紹名誉会員が
三田市技能金欄賞を受賞

森井禎紹名誉会員は、2024年度「三田市技能金欄賞」を受賞しました。地道な努力と経験を積み重ねて培った技能で市民生活と地域産業の発展を支えてきた人へのたたえる賞で、市が2017年に創設。これまでに全国1000以上の祭りを撮り続け、訴求力や物語性を高める独自の撮影手法を確立した点や、多くの著書や写真集を発行し、全国の写真ファンに影響を与えたことなども評価されての受賞となりました。

富山支部創立50周年
記念作品集が完成

富山支部では創立50周年を記念して作品集を発刊しました。支部員の作品と第36回から45回展の「支部大賞」作品も収録。歴代の大賞受賞者と審査員の一覧も記載されています。



支部展・公募展

【第46回広島支部公募展】

会期：1月7日(火)～13日(月)
会場：ふくやま美術館ギャラリー1
時間：9時30分～17時
※ギャラリートーク
1月13日(月) 15～16時

【第46回富山支部公募展】

会期：1月11日(土)～13日(月)
会場：富山県民会館美術館
時間：9～17時
(最終日は16時30分)
※1月11日 2次公開審査

【第32回岐阜支部展】

会期：1月15日(水)～19日(日)
会場：岐阜県美術館一般展示室B
時間：10～18時(最終日は16時)

【第35回山梨支部展】

会期：1月19日(日)～
2月2日(日)
会場：岡田紅陽写真美術館
時間：10～17時
(最終日15時・休館火曜)

【第7回長崎支部展】

会期：2月7日(金)～11日(火)
会場：コラクヤ・ギャラリー4階
時間：10時30分～18時30分
(最終日は15時30分)

【第74回中部二科展】

会期：3月11日(火)～16日(日)
会場：愛知県美術館ギャラリー1
時間：10～18時(最終日は16時)

【第5回奈良支部展】

会期：5月1日(木)～6日(火)
会場：入江泰吉記念
奈良市写真美術館
時間：9時30分～16時30分
(最終日は16時)

【第62回茨城支部展・
第33回茨城支部公募展】

会期：5月10日(土)～15日(木)
会場：ザ・ヒロサワシティ会館
(旧茨城県民文化センター)
時間：9～17時(最終日は14時)

【第13回大分支部写真展】

会期：6月3日(火)～8日(日)

会場：大分市アートプラザ
1階ギャラリーA
時間：10～16時30分
(最終日は15時30分)

【第52回静岡支部公募展】

会期：6月10日(火)～15日(日)
会場：静岡県立美術館
時間：10～17時

【第36回山梨支部展】

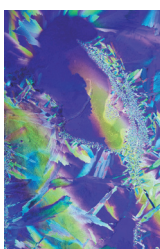
会期：6月10日(火)～15日(日)
会場：山梨県立美術館
県民ギャラリーB
時間：9～17時(初日は13時から、
最終日は15時)

【宮崎支部展】

会期：6月25日(水)～29日(日)
会場：宮崎県立美術館
時間：10～17時

会員・会友の逝去者

- 7月28日 石原光男会員 (山梨支部)
- 8月14日 北野末吉会員 (長崎支部)
- 8月29日 樋川藤之会友 (東京支部)
- 9月30日 菊池喜二郎会友 (秋田支部)
- 10月25日 佐々木 聡会員 (鳥根支部)
- 10月29日 大平幸恵会員 (広島支部)
- 11月10日 堀内三男会員 (山梨支部)
- 12月2日 伊藤五夫会員 (愛知支部)



表紙「水の表情 櫻井孝一」



一般社団法人 二科会写真部 広報誌『REAL』Vol.34
発行日：2024年12月31日 編集：二科会写真部広報委員会
発行所：〒106-0044 東京都港区東麻布2-32-8 西桜ビル2F
TEL. 03-5574-3980 FAX. 03-5574-3981